

第230回 都市懇サロン レポート	平成30年度 都市計画実務発表会受賞業務について —優秀発表業務表彰の3件について—	
講 師 および プロフィール	<b>①(株)ウエスコ：井原友建氏</b> 2001年：(株)ウエスコ入社 2005年：特定非営利活動法人地域再生研 究センター設立	開 催 日 平成31年4月16日(火) 18:00~20:00
	<b>②(株)UR リンケージ：板橋正明氏</b> 1994年：(株)都市開発技術サービス（現 UR リンケージ）入社 2015年：まちづくり計画第二課長に就任  <b>③昭和(株)：雨宮知宏氏</b> 2006年：昭和(株)入社 2015年：同企画調査室に所属	
お話の概要 および 意見交換 の概要	<b>①住民主体による将来土地利用計画と山裾の余裕域の検討（下鴨阪自治会、谷上自治会）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年の丹波豪雨災害への復興プランでは、山裾地域において余裕域を設ける方針が明記されたが、2地区の取り組みにあたっては、一律の復興方針ではなく、2地区の状況を踏まえた上で異なる戦略を採った。</li> <li>死者は出たが人家の被害が殆ど無い下鴨阪では里山側の整備によって余裕域を設ける方針、また人家や公民館に多数の被害があった谷上では地域コミュニティの再生を目指す方針とした。検討にあたってはワークショップを活用した。</li> <li>2地区で得られた集落再生の検討プロセスはある程度形式化できるものと考えている。全国の中山間・農村漁村地域に広げていけるのではないかと。</li> <li>むらづくりには専門家の力が絶対に必要と感じた。今後の課題はむらの高齢化である。地域の方の参加を保ちつつ、継続的にむらづくりを行う方法が難しい。今後も地域住民との相談を続けていく。（丹波市復興推進室職員より）</li> </ul>	
	<b>②既成市街地全域が津波浸水想定区域の地方都市（須崎市）における立適策定に係る検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>本来、誘導区域は災害リスクが想定される地域に設定することは好ましくない。しかし財政や既存の生活基盤を考慮すると、市内2箇所に存する既成市街地を移すことは事実上困難であるため、津波災害から避難することを前提に、2つの既成市街地において誘導区域を設定した。</li> <li>3.11震災では浸水深2m前後で被害に大きな差が出たため、これを基準として都市機能誘導区域に2つの区分を設けた。水深2m以上の区分では、堅牢建物の推奨、住居施設において高さ2m以上へ居室の一部設置を推奨等を図ることとした。また当該区域は、建築・開発等にかかる市独自の届出制度の対象とした。</li> <li>また既成市街地全域に、自主防災活動の強化を図るための「(仮称)自主防災活動強化区域」を設定した（市独自の設定）。</li> <li>津波到達時間は早くても20分とのことだが、その時間では自助の考え方がより重要になると思う。何か対策を講じていれば教えていただきたい。</li> <li>⇒既成市街地全域に指定した「(仮称)自主防災活動強化区域」では、地域の自主防災組織を活用して避難経路や避難ビルの周知を図ることとしている。</li> </ul>	
	<b>③磐田市における立地適正化計画・都市マス・調整区域の地区計画方針の一体的策定事例</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>立地適正化計画、都市計画マスタープラン、市街化調整区域の地区計画（※約45%が調整区域に居住する現状を踏まえ、調整区域の在り方を整理するもの）に関する基本的な方針の策定にあたり、誘導区域設定・将来土地利用・地区計画の地区選定等を一体的に検討することで整合性の確保等を図った。例えば、将来の産業拠点は、市街化調整区域のSIC周辺に位置付けを行ったが、調整区域の地区計画の基本方針においても同様の位置付けをすることで、実現化を担保している。</li> <li>計画の考え方を市民に十分に定着させるため、エリア毎に将来のライフスタイルを模式的にイメージしたイラスト、将来の磐田市全体のまちがイメージできるマップを作成し、計画に取りまとめた。</li> <li>まちのイメージを伝えるのは非常に難しく、イラスト化して周知させる方法は面白いと思った。誘導区域外の市街化区域のエリアの考え方はどういうものか。</li> <li>⇒合併により市内には旧市町の拠点が点在しているが、そうしたエリアもしっかりと維持をしていくという考え方で3つの計画を取りまとめた。</li> </ul>	
記 録 者 の ひ と こ と	規定の進め方を守りつつも、まちの現状を踏まえた上で、独自の進め方や位置付けをされた事例を紹介いただき、コンサルタントとして柔軟な発想をもって取り組むことの重要性を再認識できた。 <<都市懇サロン運営部会 委員 安 政 翔>>	